

CH-47J 体験搭乗



新潟地本（本部長 1陸佐 村岡史朗）は5月24日（土）、航空自衛隊新潟分屯基地（司令 2空佐 景浦浩）においてCH-47J輸送ヘリコプターの体験搭乗を行いました。

これは入間ヘリコプター空輸隊（航空自衛隊入間基地）の協力を得て行ったもので、自衛隊に興味を持つ募集対象者や保護者、援護協力者ら30名が参加しました。

参加者はまず、集合場所で



ある体育館でパイロットからヘリコプターの役割や説明を聞き、搭乗する際の注意事項や安全教育を受け知識を深めました。その後格納庫へ移動し、搭乗手続きを済ませドッグタグと呼ばれる認識票を受け取ると、搭乗への期待が一気に高まりました。



受け取ると、搭乗への期待が一気に高まりました。

隊員の誘導でエプロン地区に進出し搭乗口に向かう際、参加者は想像以上のエンジン音の大きさやプロペラの回転によって吹き下ろされるダウンウォッシュの強さに驚いた様子でした。

飛行は新潟市の中心街を1周するルートで、参加者は普段とは違う目線から眺める青い日本海や中心街の景観に心を奪われていました。窓から写真を撮ったり、自宅の位置を確認したりする様子も見られたほか、貴重なコックピットも間近で見学するなど、約20分間の空の旅を存分に満喫できたようでした。

飛行は新潟市の中心街を1周するルートで、参加者は普段とは違う目線から眺める青い日本海や中心街の景観に心を奪われていました。窓から写真を撮ったり、自宅の位置を確認したりする様子も見られたほか、貴重なコックピットも間近で見学するなど、約20分間の空の旅を存分に満喫できたようでした。



搭乗後には、格納庫で救難隊員による説明を受けながら救難装備品やUH-60J、U-125Aの展示を順に見学し、最後にヘリコプター隊への応援メッセージや感想などを寄せ書きに書き込んで

体験搭乗を終了しました。

参加者は、「今日はヘリに乗るのを楽しみに来ましたが、救助ヘリや捜索機まで見せていただいて、航空自衛隊をより深く知ることができました。」と内容の濃いプログラムに満足した表情を見せていました。

新潟地本は今後も他部隊と連携し魅力的な広報活動を行い、自衛隊への親近感の醸成を図っていきます。

